

# 片丘地区

日付：令和5年7月27日（木）

場所：片丘支所

会場：20名 オンライン：7名

出席者：市長 企画政策部長 建設事業部長 企画課長 都市計画課長 企画係長 計画係長 企画係1名 デジタル戦略課1名 計画係1名

## グループごとの発言

### ■ グループ①

- ・ 地区の強みは非常に良い自然環境の中にあり、北アルプスも綺麗に見えること。子育てをするには非常に良い環境があるのではないかと。
- ・ 私も出身者だが、片丘小学校が150周年を迎える。子どもが非常に減少している状況がある中で、若い人たちの中には片丘に家を建てたいという方もいると聞く。ただ調整区域があつて家が建てられない状況。土地利用の推進は、少しずつでも進めていただきたい。
- ・ 2年くらい前からコロナで十分にできていなかったが、子ども食堂を片丘小学校に限った中である程度進めてきた。目指しているのは「子どもから高齢者まで参加していただける」こと。子ども食堂という何か貧困というイメージがつかまとうが、そういうことではなくて、やはり地域の繋がり、人と人が繋がるということをやりたいと思ってやってきた。話を聞くと片丘は非常にいいところで、住みたいという人もいる。地域の人たちと子どもたちがここで豊かに暮らせるような状況を何とか早めに作っていききたい。
- ・ 地区の弱みは空き家が増えていること。南内田は特に人口が増えていない。一番は土地利用の制限だと思う。早めに土地利用を推進して、少しでも調整区域の中にあつても家が建てられるような環境になるよう、進めていただきたい。
- ・ 地域振興バスで塩尻市の街の中に行くのもいいが、広丘への利便性をもう少し高めていただけられないか。特にそこにはギャザなど商業施設があるので、お店がオープンする時間に合わせて動かしていただくと、非常に便利で少しでも活性化していくのではないかと。

### ■ グループ②

- ・ 特に一番思うのは、やはり家が建てられないこと。家を建てたいという方が結構いらっしゃるが、調整区域になっていて建てられないというのが一番大きい。山麓線など景観は非常にいいので土地をうまく利用して、何かが呼べるようなものができたらなという気持ちはある。
- ・ 今は、ワインなどの産業ができていますが、これからは天候不順などが今後続いていくかもしれない不安もある。別のもの、農作物に限らないが農業人口もどんどん減っている中で、農業の雇用が増えて、また活性化に繋がっていけばいいかなと思う。

### ■ グループ③

- ・ 地区の課題について9つ提示する。
- ① 一番重要なのは地区センターの新築。高齢化が非常に進展していて、市の平均を上回る高齢化率という状況がある。もう一つは、多目的研修センターは地区センターの役割を持っているが、ここが非常に狭くて駐車場も高齢者にとっては使用が難しいところがある。また、土砂災害警戒区域内にあり地形的に一番水が集まりやすいところで、結局災害が起きれば利用できないところにある。違う適地を見つけて早期に新築すべきだと考えている。
  - ② 片丘農村広場の整備について。昭和57年に整備して以来設備管理も不十分で、安全面からフェンスやグラウンド整備、隣接している小丸山公園の整備などが必要。特に片丘地区は公園が非常に少ない中で使えない状況になっている。子どもたちの遊具も全部撤去されて、東屋も危ない状況になっている。また、遺跡の一部が燃えてしまったなどいろいろあつて、公園としての機能が低下しているので再整備が必要だと考えている。

- ③ 高齢者の足の確保について。ここは地区の中では進んでいると言われているが、これからは高齢者が高齢者をサポートしなければならない時代に入ってくる。早急に対策を考えなければいけない。
- ④ 不法投棄問題について。ここは山林が非常に多く、民家がないようなところへの不法投棄が非常に多い。毎年のように捨てられていて、特に北熊井や南内田では産業廃棄物の大規模な置き場の問題が既に発生していて、法的な違反状態にあるという状況がある。これが長期にわたることはとても耐えられるものではない。住民からも早期に撤去してほしいと要望が寄せられているので、対応をお願いしたい。
- ⑤ 農業後継者への対応について。毎年のごとく農地の荒廃は進んでいて、有料農地と言われながら荒廃が進む一方。後継者による農地の維持や農業が継続できるような仕組み、あるいは法人化等がまったく手につけられていない状況があるので、難しい問題かもしれないが市としても何らかの施策が必要だと感じている。
- ⑥ 鳥獣対策について。山から鹿やイノシシ、特に最近は鹿が出てくるということで、農作物への被害が出ているので、その対策が必要。
- ⑦ 片丘バイパスの早期実現について。だいぶ進んできていい方向になってきてはいるが、これからまた10年かかると言われても困る。早期の実現をお願いしたい。地権者には一応大筋でご了承いただいているので、地権者が良いと言っている時に早く実現することがポイントかと思う。ぜひ県と連携しながら進めていただきたい。
- ⑧ 地区の問題では地区活動の活性化が挙げられる。他の地域も同様だと思うが、コロナの発生により地区活動が停滞してなかなか飲み会も一切ない。行事がなくなったことでお互いを理解する場が減っている。市としても活性化策を考えていただきたい。地区内の意思疎通がなかなか難しくなってきた。
- ⑨ 土地利用についても課題だと感じるが、他のグループでも同様の話が出たので説明は割愛する。

■ グループ④

- ・ 山麓線には総合教育センターと林業総合センターと大きい県の施設があるが、関係者しか行かないような施設になっていて、あれだけ道が広くて良い道ができていのに一般の方はただ素通りしてビュンビュン走っているだけになっている。
- ・ せっかくあれだけ県が活用しているのであれば、県道にしてもらいもう少し整備してはどうか。あそこからの景観は小坂田公園よりも非常に景観が良い場所だと思う。車を止められるスペースを作って、せっかく片丘のブドウ栽培が盛んになっているのでブドウに関連したものや、車を止められるスペースを作って片丘の文化遺産を紹介するような休憩場所のようなものを作り、景観を楽しんでいただくような形になればいいのではないかな。

■ グループ⑤

- ・ 地区の課題は交通が不便であるということ。
- ・ 土砂災害のハザードエリアの中に避難所があることから、多目的センターもそうだがその辺をどう考えていくか。最近予想外の大雨が各地で多発しており、塩尻市でも想定外のことが起きるのではないかと考えている。その辺をどう考えていくかが課題ではないか。
- ・ まちづくりの目標は、観光地域を目指すということで、高ボッチ高原へのロープウェイを作ったり、片丘桜をものすごく増やす。ワイナリーもできているので、それらを含めた形で観光地域を目指すのがいいのではないかな。

■ グループ⑥

- ・ 高ボッチ高原は昨今若い人で大変混んでいるが、高齢者が少ない。片丘地区の高齢化率は高いが、地元の高齢者も気楽に行って散歩できるような場所にできないか。松本市と協力して鉢伏ルートハイキングができるような、歩いていけるようなそんなルートも考えていただきたい。高齢者が高ボッチ高原に行って健康づくりができるくらいになればいい。
- ・ 交通については、のーとを早く片丘へという意見が出た。